

第8章 青少年の意識

1 青少年の意識に関する調査について

県の施策を推進し、県民の自主的活動の有効な展開を図るためには、青少年問題に関する県民の理解と市町村等関係機関の協力が必要です。

このため、県では、青森県青少年健全育成条例に基づく青少年行政基礎調査事業の一つとして「青少年の意識に関する調査」を隔年で実施し、その結果を県民に明らかにするとともに、市町村等関係機関に情報提供している。

(1) 調査の目的

本県における青少年の意識や行動を把握して、青少年に関する施策の総合的な推進のための基礎資料を得るとともに、得られた結果を広く県民に紹介することにより、青少年の健全育成に対する理解と協力を得る。

(2) 調査の方法

インターネットによる調査

(3) 調査の対象

- ① 小学校、中学校
層化無作為抽出法により選定した小学校6年生、中学校2年生
- ② 高等学校
県内の公立高等学校2年生の全生徒
- ③ 回答率

校種	対象学年	調査対象者数*	回答者数	回答率 (%)
小学校	6年生	853	444	52.1
中学校	2年生	884	752	85.1
高等学校	2年生	9,114	6,232	68.4

※ 調査対象者数は、令和5年学校基本調査による

(4) 調査の実施期間

令和6年9月から10月まで

(5) 調査項目

- ① 地域のこと
- ② 学校のこと
- ③ 家族・家庭のこと
- ④ 自分のこと
- ⑤ メディア・コミュニケーションのこと
- ⑥ 読書のこと
- ⑦ 世の中のこと
- ⑧ 就労に関する意識
- ⑨ 社会の価値観の変化に対する意識

(6) 調査実施主体

青森県子ども家庭部県民活躍推進課

(7) 調査の監修

弘前大学人文社会科学部 教授 羽瀧一代氏、准教授 花田真一氏

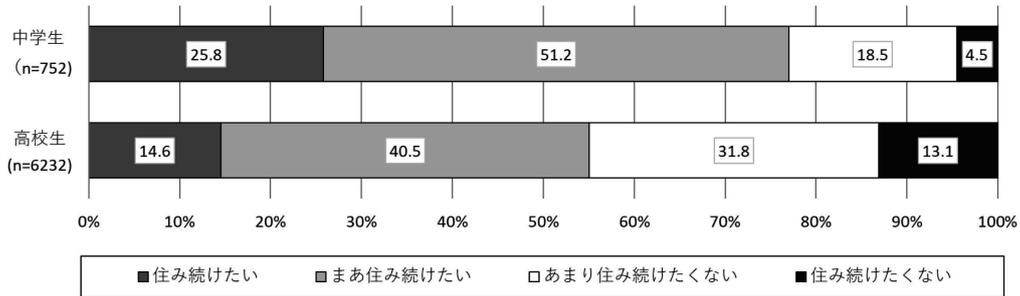
※報告書掲載URL

<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kodomo/kenmin/seisyounen-kisotyousa.html>

2 結果概要（単純集計）

(1) 定住意向

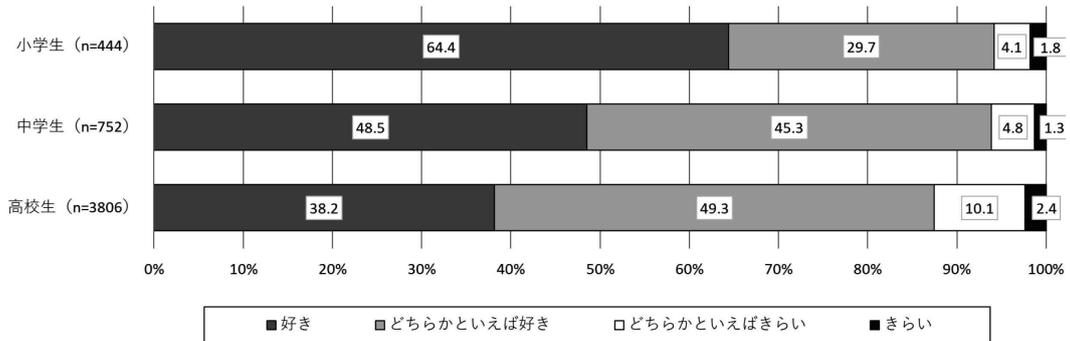
中学生と高校生に、住んでいる地域に将来も住み続けたいかどうか尋ねたところ、「住み続けたい」が中学生では25.8%、高校生では14.6%で、中学生の方が高校生より定住意向をもつ者の割合が高い。



第1-8-1図 定住意向

(2) 住んでいる地域への評価

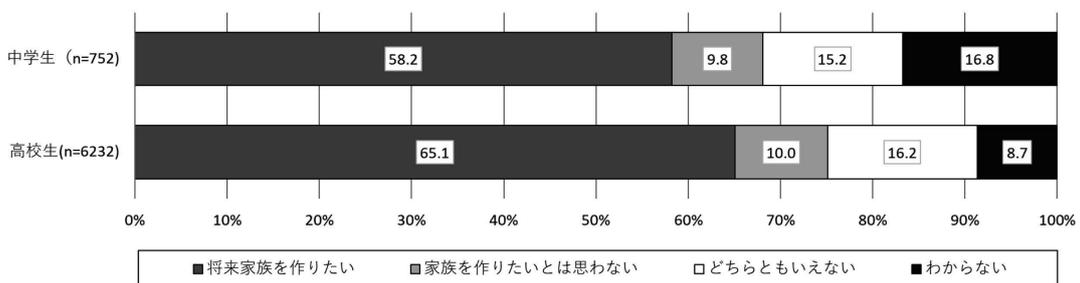
住んでいる地域が「好き」は、小学生が64.4%で最も高く、以下、中学生（48.5%）、高校生（38.2%）となっている。



第1-8-2図 住んでいる地域への評価

(3) 結婚して家族を作りたいか

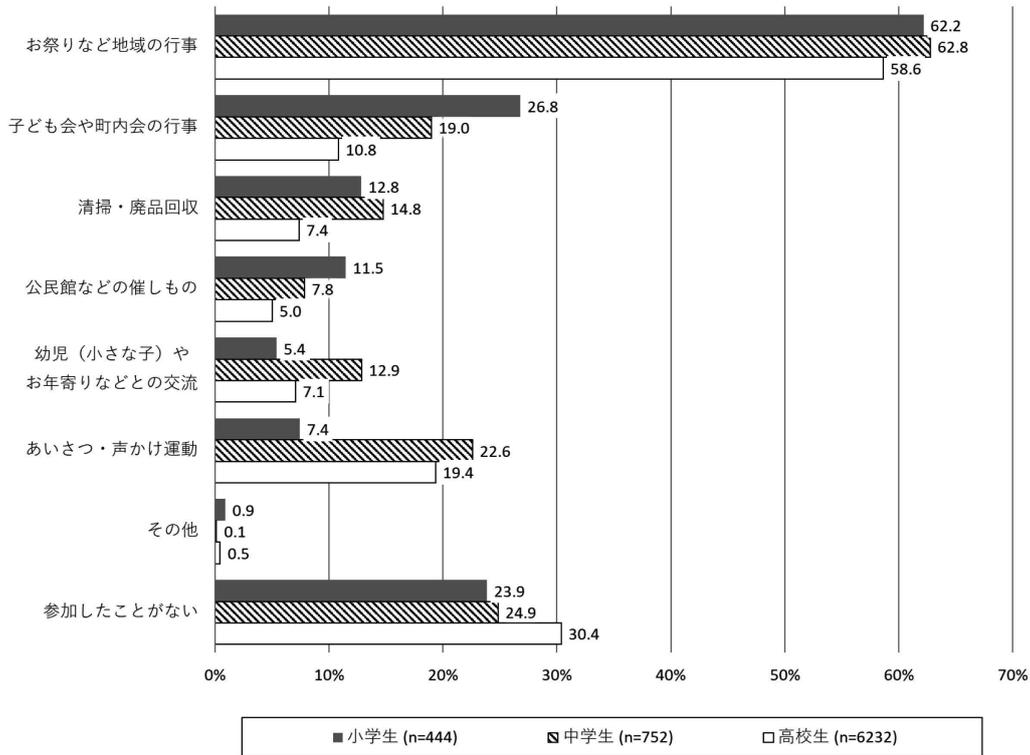
中学生、高校生に、将来、結婚して家族を作りたいかどうか尋ねたところ、「将来家族を作りたい」が最も高いが、中学生より高校生のポイントが高い。



第1-8-3図 将来結婚して家族を作りたいか

(4) 地域活動への参加

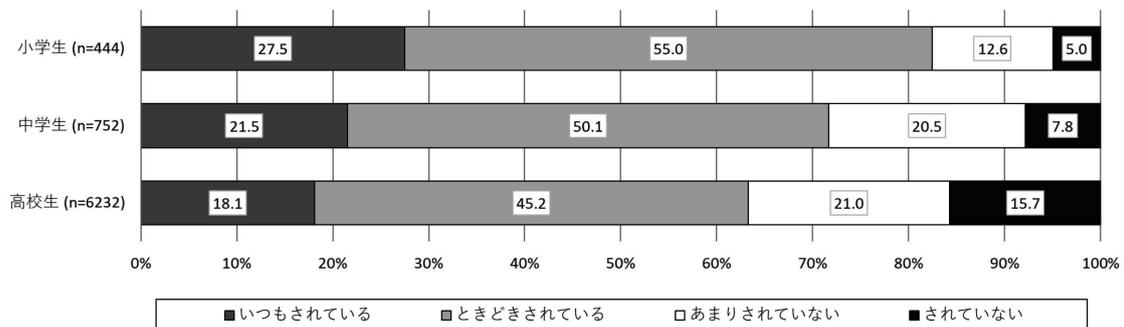
最近1年間で参加した地域活動について尋ねたところ、「お祭りなど地域の行事」が小学生、中学生、高校生のいずれでも最も高く、中学生（62.8%）、小学生（62.2%）、高校生（58.6%）の順となっている。



第1-8-4図 地域活動への参加

(5) 地域の大人からのあいさつ

地域の大人から挨拶されているかどうか尋ねたところ、「いつもされている」は、小学生が27.5%で最も高く、中学生（21.5%）、高校生（18.1%）となっている。



第1-8-5図 大人からのあいさつ

(6) 1日の勉強時間

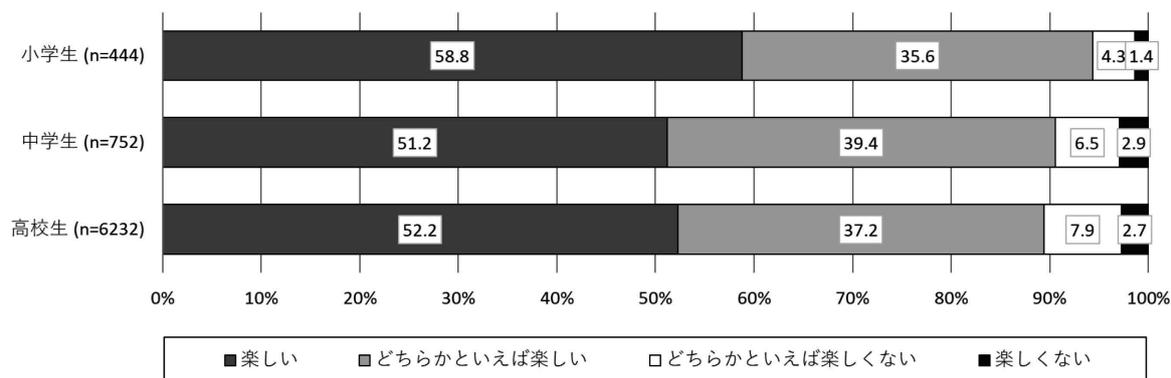
1日平均の勉強時間を尋ねたところ、小学生では1時間20分、中学生では1時間13分、高校生では59分であった。

第1-8-1表 1日の勉強時間

	小学生	中学生	高校生
平均	1時間20分	1時間13分	59分

(7) 学校生活への満足度

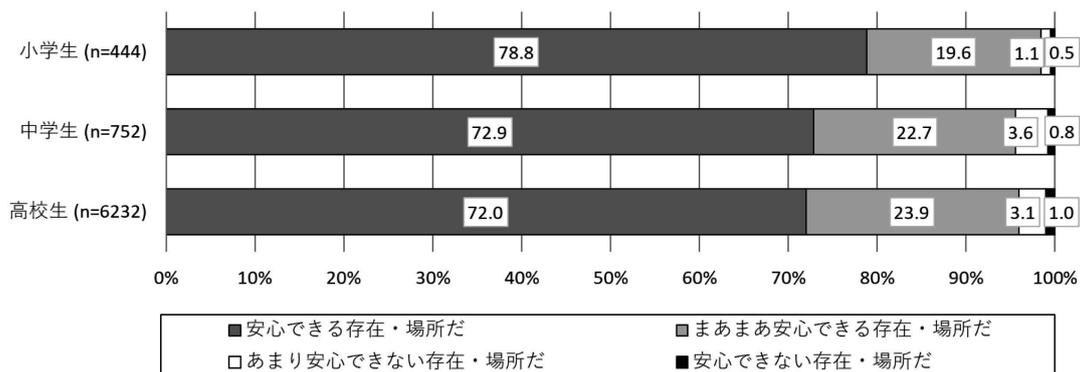
学校生活が楽しいかどうか尋ねたところ、「楽しい」は、小学生が 58.8%で最も高く、以下、高校生 (52.2%)、中学生 (51.2%) となっている。



第 1-8-6 図 学校生活の楽しさ

(8) 家族・家庭への評価

家族・家庭が安心できる存在・場所かどうか尋ねたところ、「安心できる存在・場所だ」が最も高く、小学生が 78.8%、以下、中学生 (72.9%)、高校生 (72.0%) となっている。



第 1-8-7 図 家族・家庭への評価

(9) 1日のお手伝い時間

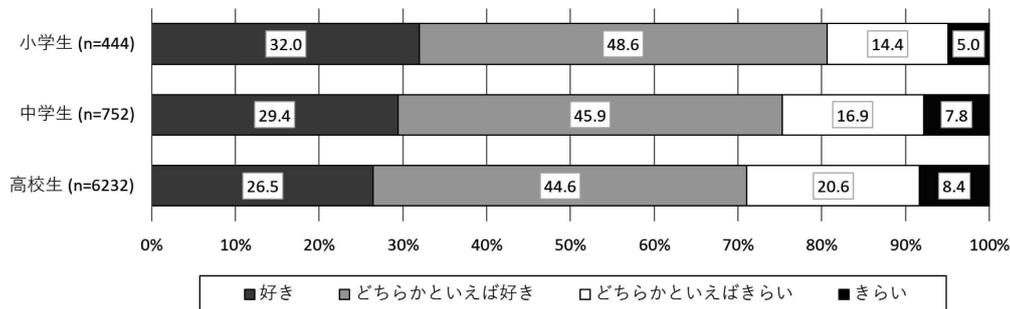
1日のうちにお手伝いをする平均時間を尋ねたところ、小学生では 48 分、中学生では 43 分、高校生では 49 分であった。

第 1-8-2 表 1日のお手伝い時間

	小学生	中学生	高校生
平均	48分	43分	49分

(10) 自己への評価

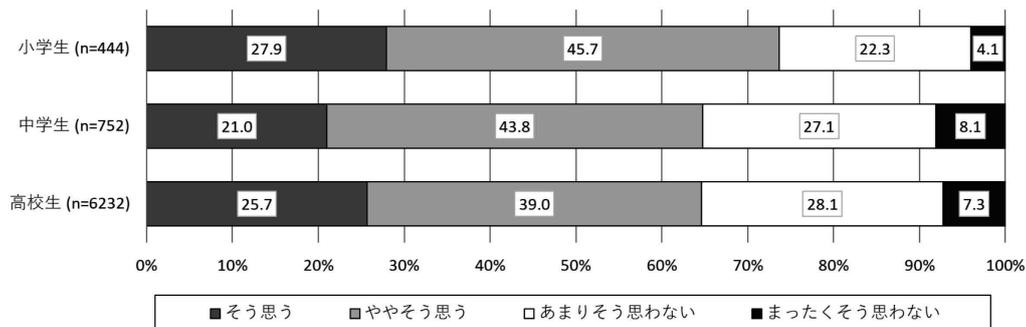
自分のことが好きかどうか尋ねたところ、「好き」と答えた割合は、小学生が 32.0%で最も高く、以下、中学生 (29.4%)、高校生 (26.5%) となっている。



第 1-8-8 図 自分のことが好きか(自己肯定感)

(11) 家族や社会への関わりについて

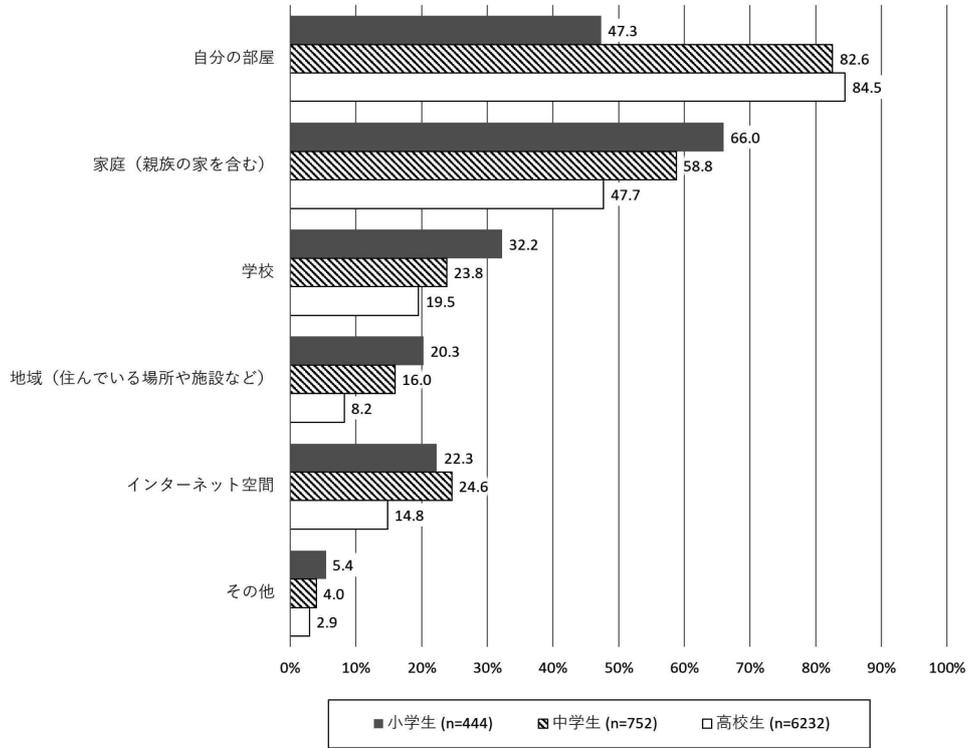
世の中の役に立っていると感じるかについて尋ねたところ、「そう思う」は、小学生が 27.9%で最も高く、以下、高校生 (25.7%)、中学生 (21.0%) となっている。



第 1-8-9 図 自己有用感

(12) 居心地のいい場所

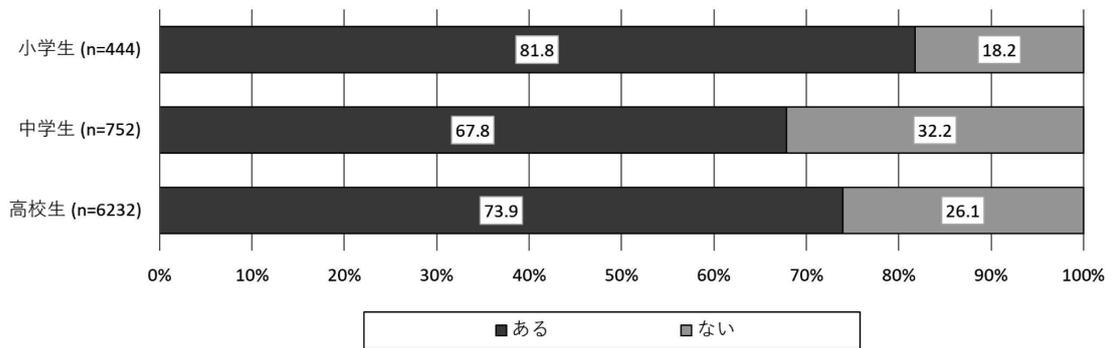
居心地のいい場所について尋ねたところ、小学生は、「家庭（親族の家を含む）」（66.0%）、中学生と高校生は、「自分の部屋」（中学生82.6%、高校生84.5%）の割合が最も高くなっている。



第1-8-10図 居心地のいい場所

(13) 将来の就労意識

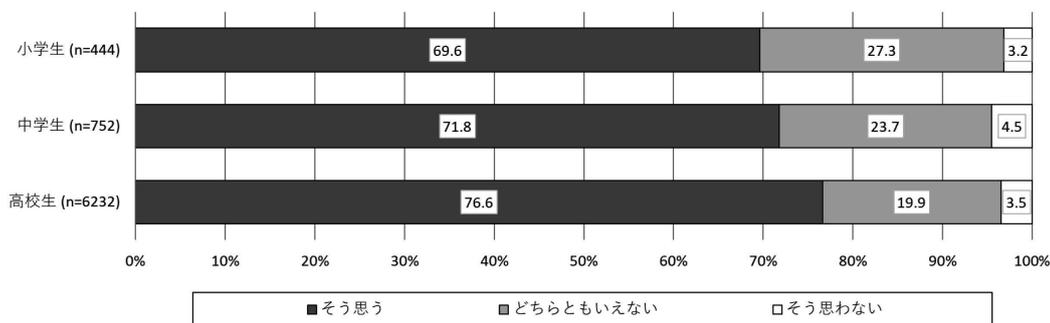
将来したい仕事やつきたい職業があるかどうかを尋ねたところ、「ある」と答えたのは、小学生の81.8%が最も高く、以下、高校生（73.9%）、中学生（67.8%）となっている。



第1-8-11図 将来の就労意識

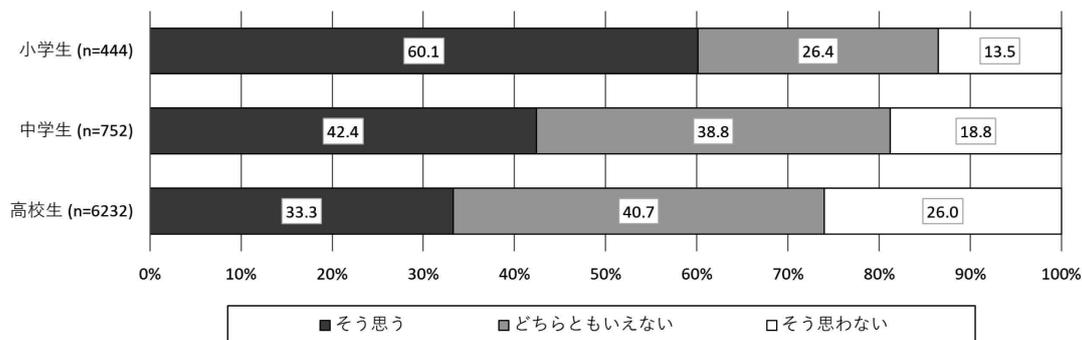
(14) 社会の価値観の変化に対する意識

自分とは異なる考えを持っていたり、好きではない人であっても尊重すべきか尋ねたところ、「そう思う」は、高校生が76.6%で最も高く、以下、中学生(71.8%)、小学生(69.6%)となっている。



第1-8-12図 自分とは異なる考えを持っていたり、好きではない人も尊重すべき

友達の数が多いほうが良いかどうか尋ねたところ、「そう思う」は、小学生が60.1%で最も高く、以下、中学生(42.4%)、高校生(33.3%)となっている。



第1-8-13図 友だちは多いほうが良い